

岡山・県立 **瀬戸高校****保護者向け講座を定期開催し
生徒の学ぶ意欲を後押し**

取材・文／藤崎雅子 撮影／武政智哉(タケマサアトリエ)



>>実践ノウハウ

- 保護者対象の進路・キャリア講座を学年ごとに年3回定期開催
- アンケートで活動の評価を行い、意見や要望には必ず対応
- 卒業する生徒に3年間を振り返った学校満足度調査を実施

岡山県立瀬戸高校は100年の伝統を誇る中堅進学校だ。しかし1980年代後半、近隣に新設された全県学区の単位制高校の人気の影響もあり、同校の進路実績は約15年にわたって低迷していた。それがこの数年、元氣を取り戻しつつある。端的に変化したのが国公立大学への挑戦者の増加だ。近年の国公立大学現役合格者数は低迷期の3〜4倍で推移している。要因は複合的だが、大きいのは保護者を巻き込んだキャリア教育の成果だと考えられる。総合的な学習の時間を軸に生徒の進路啓発を行い、さらに保護者に対しても進路・キャリアをテーマとした「土曜日講座」を定期開催。学校と保護者が連携して、生徒の学ぶ意欲を高めている。

外部講師を活用した**総合学習を軸に進路啓発**

同校のキャリア教育実践の中心となっているのは、総合的な学習の時間だ。2008年度からは進路指導課が担当となり企画・運営を行っている。「今後の人生において物事を多角的に見て判断していく必要性を教え、主体的に学び行動する意欲を育みたい」と進路指導課の高井基生先生。そのため、多様な考え方や生き方に触れられる外部講師による講演会に力を入れている。昨年度は、1年生には香川大学キャリア支援センター准教授による講演「キャリアって何？ 将来を見据えた生き方・あり方」、3年生には岡山大

学キャリアアドバイザーによる講演「自分を咲かせるために今できること」など、進路・キャリアに関連する講演会を7回実施。また、1学年全員が岡山大学を訪問し、大学生に交じって授業を聴講するなどの活動を行った。09年度は、キャリア教育が明記された新しい学習指導要領をふまえて、時期に応じた講演会や体験をさらに充実させていく予定だ。

3年間9回の講座で**保護者にも情報提供**

また、キャリア教育実践のメッセージを保護者にも伝えようと、子どもの進路・キャリアをテーマにした保護者対象「土曜日講座」を04年から実施している。現在、学期ごとに年3回、各学年で開催。保護者は3年間で9回、その時期に合わせた役立つ情報を得ることができる。プログラムには、科目選択や大学受験システムなど短期的な進路情報とともに、長期的な視点に立ったキャリア形成に関する話題も豊富に盛り込まれている。また、アンケート等で保護者の声を反映するよう配慮。進路指導主事の山本達也先生は、「生徒も保護者も大学進学先の先にある将来に目を向けてほしい。そのための情報を学期ごとにタイミングよく提供することで、親子が同じ認識に立って将来の話ができるようになることを目指しています」と講座のねらいを語っている。

>> School Data

普通科 / 1909年創立

生徒数 / 479人(男子238人・女子241人)

進路状況(2008年度実績) / 大学 76.6%・短大 1.5%

専門学校 9.1%・就職 0.5%・浪人(未定) 10.7%・その他 1.5%

岡山県岡山市東区瀬戸町光明谷316-1

TEL 086-952-1031

URL http://www.seto.okayama-c.ed.jp/

Process

立ち上げのプロセス

保護者の認識が生徒の
進路を決める二因に

岡山県内の高校で「土曜日講座」といえば生徒対象の補習授業が一般的だというのが、同校の保護者を対象とした「土曜日講座」はどのような経緯で始まったのだろうか。山本先生が同校に着任した03年当時の生徒と保護者の状況は、次のようなものだったという。

「生徒は希望や実力というよりも負担の軽さを求め、推薦で入れる大学や地元の大学に流れるケースが多く見られました。それは素直でおとなしい本校生徒の気質だけが原因ではないと思います。本校の学区は広く山間部も含み、インターネット環境の遅れなども抱えるなかで、保護者は大学や仕事について過去のイメージや少ない情報で判断しがちでした。『この大学に進学すれば就職できる』『この資格さえ取れば将来安心』といった誤解も少なくなかったようです。生徒の進路の可能性を広げるためには、保護者の意識から変える必要性を感じました」

それまで進路指導課から保護者へ進路・キャリアに関して情報提供する機会は、5月のPTA総会後にある学年懇談の年1回。提供できる情報量にも限りがあり、出席率も低かった。そこで必要な時期に必要な情報を効果的に伝えていくた

いと始まったのが、保護者対象「土曜日講座」だ。小規模な同校では少ない教員数で部活動の指導にあたっており、土曜日に他校のような補習授業の実施は困難だったが、このような進路支援策なら少人数で対応できた。04年の秋、2、3学年で各1回試行したところ保護者の反応がよく、05年からは本格的に3年間を体系立てて取り組むことになったという。

Close up ①

保護者講座の実践

6割の家庭が参加

親子で話すきっかけにも

現在、「土曜日講座」は学期に1回、学年別に土曜日の午前に開催している。企画運営は進路指導課が担うが、主催はPTAという形態を取り、保護者の要望の吸い上げや予算面のバックアップ等で保護者側と協力。所要時間は1、2学年が90分、進路選択が佳境となる3学年は120分で、母親の家事時間に配慮していずれも11時には終了するよう時間設定されている。

学年・時期に応じて各回2～5種類のテーマが組まれ、B4判5～12枚程度の配布資料をもとに進められる(図1)。各講座の大まかな流れを見ると、前半に生徒の現状報告、科目選択や大学入試システムなど高卒時の進路選択に向けた解説。後半は、大学や企業での人材育成や人気職業の実状など、大学進学先の先にあるキャリア形成

図1 保護者対象「土曜日講座」の主なテーマ(2008年度)

実施月	1学年	2学年	3学年
5月	(PTA総会時)進路関係行事や保護者向け「土曜日講座」の日程と概略の提示		
6月	○高校生活について理解を求める(中学と高校の違い／学習指導要領の変化に伴う学習量の違い) ○高校生活への不安を取り除く(生活指導について／初めての学力検査・校外模試) ○文理選択(オープンキャンパス)	○学年の現状報告 ○3年になって慌てないための心構え(大学を取り巻く環境／大学の難易度変化／大学院の状況) ○大学を知る(オープンキャンパス)	○進学に向けた準備(進学費用／学校選びのポイント／大学のキャリア教育／大学改革の動向など) ○三者懇談に向けた事前準備
9～10月	○学年の現状報告 ○文理選択の考え方(大学の学部・学科の特長／科目選択／資格＝就職ではない事実／上級学校卒業後を見据えた進路選び)	○学年の現状報告 ○3年生での科目選択の考え方 ○大学を知る(選ぶポイントなど) ○進学後の先を考える(職業、資格など)	○学年の現状報告 ○具体的な出願システムの理解 ○受験に向けた環境整備 ○保護者が動揺しないために(秋の乗り切り方／家庭での声かけのしかた)
12 or 2月	○学年の現状報告 ○中だるみからの脱却(つまずきやすいポイントなど) ○2年後を見据える(大学・専修学校・就職と、その後の将来設計の重要性) ○2学年の流れの説明	○学年の現状報告 ○受験に向けた意識改革 ○大学受験システム(保護者の時代との違い／現3年生の状況) ○大学・職業を知る ○3学年の流れの説明	○受験に向けた家庭での取り組み方(予想難易度／学校選びのポイントの復習) ○保護者が動揺しないために(三者懇談で話し合う内容／家庭での注意) ○受験で失敗したとき ○3学期の日程への理解



進路指導課
高井基生先生



進路指導主事
山本達也先生

に関する話が伝えられる。学校で学ぶことが将来に生きると理解してもらうため、就職試験で課される適性検査「SPI2」の問題を実際に解いてもらうこともあるという。

この後半のキャリア形成に関する内容に、保護者は特に刺激を受けるようだ。同校が高校の外側の動向について多彩な情報を提供できるのは、他校教員や大学や専門学校の方の担当者、大学教授、卒業生や生徒の保護者など幅広い人間関係があるためだと山本先生は話す。

「例えば、講演会に参加して興味を持った講師には終了後に話しかけたり、後日メールで質問するなどして関係を築くよう心がけています。また、専門学校や大学の方の訪問時には対応時間を惜しまず、逆にこちらが業界事情を取材。貴重な情報を得ることも少なくありません。身近なところでいうと三者面談は様々な職業の保護者と接する機会ですから、雑談のなかで仕事内容や職場の様子をつかがうようにしています」

しかし、教員の個人的なネットワークや情報収集力に頼る部分が大きく、誰が担当しても運営できる組織的な体制づくりが課題だ。現在、後輩教員とペアで取り組むなどノウハウの共有を図っているところだ。また、資料は更新しやすいよう出典を明記するなどの整備を進めている。

講座の参加者は、回を重ねるたびに増える傾向が見られる。08年度、1学年第1回の出席率は25%ほどだったが、2学期は約5割に倍増。3学年第2・3回は6割近かった。参加した保護者か

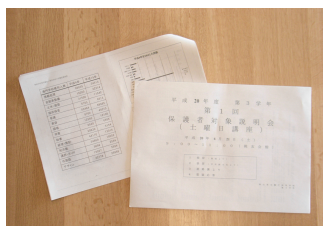
図3 「卒業式アンケート」の質問項目(抜粋)

- Q.卒業にあたって瀬戸高校に満足していますか?
- Q.生徒指導は厳しかったですか?
- Q.部活動や学校行事は楽しかったですか?
- Q.学習活動は楽しかったですか?
- Q.友人関係は良好でしたか?
- Q.教育課程(カリキュラム・時間割・習熟度授業など)は自分の進路実現に適したものでしたか?
- Q.部活動を3年間継続していた人に質問します。
勉強と両立できたと思いますか?
- Q.受験を意識し始めたのはいつですか?
- Q.受験を意識したきっかけは何でしたか? 上位2つを教えてください
- Q.受験勉強を開始したのはいつですか?
- Q.わかりやすかった科目とその理由を教えてください(科目は複数可)※
- Q.わかりにくかった科目とその理由を教えてください
(科目は複数可)※
- Q.高校時代に塾や予備校を短期間でも利用しましたか?(複数回答可)
→受講した科目、期間、塾名・業者名※
- Q.中学時代に塾や予備校を短期間でも利用しましたか?(複数回答可)
→利用した塾名・業者名※
- Q.本校入学時に目指していた将来の第一志望はどこでしたか?
- Q.高校3年の受験校決定時の第一志望はどこでしたか?
- Q.後輩の皆さんに何かメッセージがありますか?
あれば書いてください※

※のみ自由記述。ほかは選択肢から選択

図2 保護者対象「土曜日講座」アンケート結果より

- とても参考になり、時間をかけてしっかりと将来の進路について子どもと話したいと思います(1学年/第2回)
- 妻の都合により、初めて参加させていただきました。本校の生徒の兄が別の県立の普通科に進学しておりますが、本校のような取り組みはなく、感心いたしました。次回から妻と二人で参加したいほどです(1学年/第2回)
- 初めて参加させていただきましたが、子どもから普段詳しいことを聞くことがないので、たいへん参考になりました。ありがとうございました(1学年/第2回)
- 親世代とはまったく違うので、やはりアドバイス、相談もなかなか家庭ではできず、親子とも迷うことが多いです。もっとよく知りたいと思いました。情報をその都度、保護者へもお知らせくだされば嬉しいです(2学年/第1回)
- 自分の大学入試の時との違いがものすごくわかりました。就職にあたり私たちの頃は資格を取れば安心という感じだったが、今はそうはいかないととても勉強になりました。子どもに言ってもピンとこない感じですが、話題の1つとしていろいろ話をしてみようと思います(2学年/第1回)
- 子どもとは日ごろ、進路について会話をしていますが、本日、先生方の話を聞かせていただき、(子どもと話す)今後の親としての心構え、サポート等、参考になりました。情報を得るよい機会となりました(3学年/第2回)
- 本人のやる気を維持できるように頑張りたいと思いました(3学年/第3回)
- 将来生きていく力を身につけるということまで話をしてくださり、ありがとうございました(3学年/第3回)



土曜日講座の資料には、文部科学省等や各種機関の調査結果、大学や企業の動向などの情報が満載



土曜日講座には父親の姿も。3年になると両親そろっての参加が20〜30組に増加

らは「とても参考になり、将来について子どもとよく話し合いたい」「親としての心構え、サポートなどがわかった」などと好評だ。

Close up ②

活動評価

事前・事後のアンケート結果を保護者講座に反映

「土曜日講座」が支持されるもう1つの理由として、保護者の質問や要望に応じた内容になっている点があげられるだろう。事前に配布・回収される出欠票に意見・要望欄を設け、保護者の声をプログラムに反映。実施後はアンケートを取り、感想や次回への要望などの記入と（図2）、「講座の内容」と「説明」について4段階で評価を聞いている。要望された内容は必ず次のプログラムの盛り込み、希望に沿えない場合もその事情を講座の場で話して理解を求めるといふ。コメントと点数評価の結果は、関係する教員全員に配布される。

「評価が悪くて落ち込むこともあります。自己満足にならないためには必要なことです。また、高い評価が得られれば大きな励みになります」（山本先生）

卒業時に学校満足度を測り

3年間を検証

「土曜日講座」以外でも同校は活動評価を重

視しているが、その代表例として「卒業式アンケート」を紹介したい。これは卒業式の日、3年生対象に行う、いわゆる学校満足度調査だ。「入学時から卒業までのすべての活動が進路に結びつく。その3年間を検証して学校全体にフィードバックしていくのも進路指導課の役割」（山本先生）と、進路指導課が調査を担当。卒業する生徒が高校3年間を振り返り「瀬戸高校に満足しているか」「生徒指導は厳しかったか」など約20項目に5段階で回答する（図3）。

昨年度の結果を見ると、受験科目を絞るコースの生徒よりも、国立大学を目指して5教科を学ぶコースの生徒のほうが、卒業時点の満足度が高いことがわかった。

「あえてラクではない道を選び努力した生徒のほうが充実感が高いようです。保護者も生徒を励まし続けてくれたからではないでしょうか」（山本先生）

山本先生は最近の生徒について「簡単にあきらめなくなった」と語る。これまで安易な進路に妥協してしまう生徒に教員は歯がゆい思いをしてきたが、最近は勉強の負担の大きい国公立大学に挑戦する生徒が増えたという。現役の国公立大学合格者が一時期は卒業生の10%にも満たなかったが、05年度は40%に急増。以来08年度まで30%台で推移している。3月受験者や浪人も増えたが、「納得のいく結果を得るために粘り強く頑張っている」と高井先生は生徒の意欲を称える。

INTERVIEW

保護者の不安が和らぎ、学校が身近な存在に

井上一浩さん 前・瀬戸高校PTA会長

進路環境の変化が激しいなか、子どもの進路について多くの保護者が不安を感じています。「土曜日講座」では、受験システムや進学先の最新動向のほか、長期的な視点に立ったキャリア形成に関しても教えていただき、保護者としての心構えや子どもをどう支援したらよいかのヒントになると好評です。昨年度、私は子どもが3学年に在籍していたので、3学年の土曜日講座に3回出席しました。おかげで、進路選択や受験勉強がたいへんな時期にも、わが家では落ち着いて子どもをサポートできたと思います。また、高校になると学校に行く機会が少なくなりますが、「土曜日講座」で定期的に学校や生徒の状況が報告され、必要に応じて講座後に担任の先生と話すこともでき、家庭と学校との距離が近くなったように感じます。昨年度、この「土曜日講座」の主催をはじめ長年にわたる本校PTAの活動が評価され、全国高等学校PTA連合会会長表彰団体賞を受賞することができました。全国的にも珍しい取り組みですので、今後もより充実されることを願っています。



一方で山本先生は、「教員や保護者が手を掛けるほど生徒の自立心が育たなくなるのでは」という不安も感じている。マニュアルの提供にならないよう、生徒や保護者の状況を見ながら活動内容を改善していく方針だという。さらに「キャリア教育とは何か」が教員間でまだ明確になっていない点を指摘し、「仕事に直結するキャリアだけでなく、どう生きるかという広い意味でのキャリアも大事。本校なりのキャリア教育を模索していきたい」と今後の抱負を語った。